学園長だより 第46回

いまここ

愛知淑徳学園学園長
小林素文

日本経済新聞（2025年11月27日）に概略次の記事（筆者要約）が掲載されていました。

現在7大タイトルの5冠を占める日本囲碁界の第一人者一力遼は、十代の頃から国際戦で優勝するなど将来を嘱望されていた。が、当時7大タイトルを独占していた井山裕太の壁は厚く、タイトル戦10連敗するなど歯がたたなかった。メンタルトレーニングを開始。やがて「而今（今この瞬間）」を色紙に書くようになる。さまざまな流れにとらわれずに「今この瞬間」の最善手に集中。「たとえ追い詰められても、チャンスを待って最後に逆転する。そんな経験を積み重ねたことが自信につながっている」と一力は語る。

＊

禅語である「而今（じこん）」を相田みつをは「いまここ」と分かりやすく表現し座右の銘としました。

書家の相田みつをは「上手に書こう、世間に認められよう」といった雑念を振り払い「いまここ」に集中し、ありのままの自分の内からわいてくるものを紙に叩きつけ、独自の作風を築いていきました。

＊

「而今」「いまここ」は、時代の変化が激しく先行不透明な今の時代、一力や相田のような一芸に秀でた人だけでなく万人にとっての大切な心掛けではないでしょうか。

特に、前途洋々たる生徒・学生には、過去の後悔や執着にこだわらず、未来の不安や心配にしばられず、目の前のすべきことに集中し、一歩一歩将来を切り開いていってもらいたい。また、集中を離れている時には、感受性豊かに好奇心旺盛に「いまここ」を存分に味わっていってもらいたい。

そうすれば、やがて、一力の「囲碁」や相田の「書」のような、全身全霊で打ち込める何かが見つかるかもしれません。見つかれば幸運。見つからなくとも、「すべきことをする」積み重ねが「自信（自分を信じる）」を生み、悔いのない人生を送れるでしょう。そして、感受性と好奇心は心豊かな人生の鍵です。

＊

愛知淑徳中学2年生は5月連休明けに、一周5キロ程度の小さな漁師町の日間賀島で1泊2日、干物作り、魚のつかみ取り、島民との交流などをおこないます。日常とはかけ離れた島での体験は生徒の好奇心や感受性を喚起させるようで、次の短歌を詠んでいます。

しらすどん
いわし何匹いるのかな
食べておいしい
数えてたのし（青依）

島の鳥
二羽ならんで空を飛ぶ
空っぽの青
少しにぎわう（紀乃）

生徒たちに相田の詩を贈ります。

うつくしいものを
美しいと思える
あなたのこころが
うつくしい（みつを）

須賀康夫写真集『美しき日本 わが故郷』より